

令和 7（2025）年 11 月 26 日

保護者の皆様

札幌市立札幌北中学校

校長 美 田 学 秀

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の結果（お知らせ）

初冬の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、4 月（国語・数学・理科）に 3 学年で実施された全国学力・学習状況調査について、結果を全国の平均と比較するなどして分析した「本校の概要」がまとまりましたのでお知らせいたします。ご参考にしていただければ幸いです。

1 学力調査の結果と課題や改善の方向

※「上回っている」とは、全国平均に比べ $+3.1$ ポイント以上
「ほぼ同程度」とは、全国平均に比べ ± 3 ポイントの範囲内
「下回っている」とは、全国平均に比べ -3.1 ポイント以下

【国語】

（1） 本校の概要

知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	全国平均に比べ、下回っている
思考力、判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	全国平均に比べ、下回っている
	書くこと	全国平均に比べ、下回っている
	読むこと	全国平均に比べ、下回っている

（2） 今回の調査結果による課題

- 目的に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかをみる
- 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかをみる
- 事象や行為を表す語彙について理解しているかをみる
- 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかをみる
- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかをみる

（3） 改善のポイント

- 自分の書いた文章が、目的や意図に応じた表現となっているか、相手に伝わるような文章として整っているかなど、各種作文・原稿の推敲や各単元の振り返りの取組などの学習活動を充実させる
- 定期的に行っている漢字小テストの継続と、文学的・説明的文章等を問わず、文脈や場面をしっかりとつかんだ上での漢字の書き取りを目指し、日常の漢字練習や単元ごとの振り返りなどで自身の作成する文章を精査する学習活動を充実させる

【数学】

(1) 本校の概要

数と式	全国平均に比べ、下回っている
図形	全国平均に比べ、下回っている
関数	全国平均に比べ、下回っている
データの活用	全国平均に比べ、下回っている

(2) 今回の調査結果による課題

- 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかをみる
- 統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる

(3) 改善のポイント

- 必要に応じて、四分位範囲や代表値、箱ひげ図やヒストグラムを合わせて考察できるような指導、そしてそう考察した理由を数学的な表現を用いて説明することができるような活動を充実させる
- 四分位数や四分位範囲の必要性とその意味を理解することができるような指導を充実させる
- 数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明できるようにするために、文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実させる

【理科】

(1) 本校の概要

エネルギー	全国平均に比べ、下回っている
粒子	全国平均に比べ、下回っている
生命	全国平均に比べ、下回っている
地球	全国平均に比べ、下回っている

(2) 今回の調査結果による課題

- 塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる
- 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる
- ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる

(3) 改善のポイント

- 既習の問題の条件を変更したり、他に分かることがないか考えたり、共通する性質を見出したり、得られた事象を一般化したりしつつ、習得した知識及び技能を活用して、実験・観察などの結果などを分析して解釈する活動を充実させる
- 実験で得られた結果を適切にまとめたり、そこから考えられることを表現したり、身近な生活と関連付けて考えたりする学習活動を充実させる

2 学習状況調査（生徒質問紙、解答時間終了後の質問事項）の結果

※生徒の日常の生活や学習状況を調査した結果の中で、特徴的な事項をお知らせいたします。

(1) 肯定的な回答が全国平均を上回っている事項

質問事項	本校	全国
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	79.3%	76.6%
読書は好きですか	64.7%	61.6%
国語の勉強は好きですか	73.6%	57.9%

読書が好きだという回答の割合の高さや、家にある本の冊数が多い割合の高さから、読書に対する意欲が高く、それが国語の勉強が好きという回答の割合の高さにつながっていると思われる。

(2) 肯定的な回答が全国平均を下回っている事項

質問事項	本校	全国
1、2年生のときに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	68.7%	70.6%
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか 【全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した】と答えた割合	47.7%	65.3%
今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答をしましたか 【全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した】と答えた割合	33.0%	54.9%

自分で文章を考えたり、計算だけでなく言葉を使って解答したりする問題への取組に苦手意識を抱えていることがうかがえる。同様に、「自分の考えをまとめる」や「話し合う」といった類似の質問に対しての肯定的な回答も全国平均に比べて総じて少ない。どの教科でも話し合い活動を試みているが積極的に参加できる生徒が少なく、盛り上がり欠ける授業になりがちで、生徒の印象にも残りにくいことも原因として考えられる。今回調査のあった国語、数学、理科のどの教科にも共通して、思考力を問う学習を得意としない傾向が強い。